



入口から奥に進むことで、時代順に古生代・中生代・新生代に生きていた生物の展示が見学できる自然史ゾーンのアースモール。天井の壁際のダウンライトがユニバーサルダウンライトに更新された

北九州市立自然史・歴史博物館 いのちのたび博物館

今後のメンテナンスや運用に配慮し 展示室の白熱灯を無線調光LED器具に

2001年にJRスペースワールド駅前で開催された「北九州博覧祭2001」のメイン施設を改修し、翌年に誕生したのが「いのちのたび博物館」で、地球誕生から現在に至る生命の進化と、北部九州の旧石器時代から現代までの人々の歴史を「いのちのたび」として扱う。自然史ゾーンのアースモールは奥行約100m、高さが15mを越える巨大な無柱空間で、入口から古生代・中生代・新生代に生きていた生物を展示。歴史ゾーンのカルチャーモールでは、約15mの吹き抜け空間に黒崎祇園行事の笹山笠が展示されている。

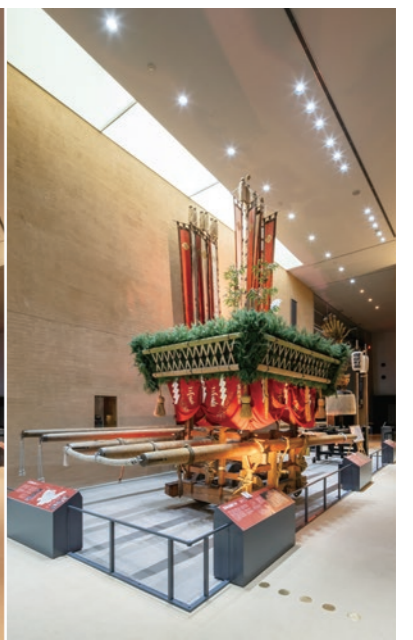
このたび、この2展示室のハロゲン電球ダウンライトがLEDに更新され、調光調色が可能な無線調光システム「WiLIA」が採用された。博物館のユニバーサルミュージアム推進担当係長・学芸員の大橋智之氏は「アースモールでは、既存照明との調和を図るため、タブレットで1灯ごとに調光調色を行った。これまで暗かった恐竜の顔部分が映えるようになった」。歴史担当係長・学芸員の宮元香織氏は「カルチャーモールでは、光源に近い幟部分の照度を抑えることができ、メンテナンス時には白色光で100%出力することで点検や清掃も安心してできる。数多く残る蛍光灯ゾーンも計画的にLED化を進めていきたい」と語る。



いのちのたび博物館
■照明設備LED化工事
所在地 / 福岡県北九州市八幡東区東田
事業主 / 北九州市
設計 / 共同設計
電気工事 / 株式会社三協電気
リニューアル工事竣工 / 2026年3月
規模 / RC造3階建(敷地面積:約31,000㎡、延床面積:約17,000㎡)



カルチャーモール(歴史ゾーン)のダウンライトは笹山笠の幟部分の照度を抑えて調光



視認性の高い昼白色はメンテナンス等で活用検討
※写真の色温度は実際の運用とは異なります



照射角を調整して顔が明確になったエレモテリウムの骨格見本



ティラノサウルスの顔を立体的に照射するユニバーサルダウンライト



タブレットにより1灯ごとの照度と色温度を調整



「WiLIA」タブレットの操作画面

- 主な納入設備
- LEDダウンライト
 - LEDユニバーサルダウンライト
 - 照明制御システム

ギガトサウルス協力:国立科学博物館
スピノサウルス Courtesy of The University of Chicago